

＜対策のポイント＞

近年、食料生産との競合や気候変動、地政学的リスク、国内採種農家の高齢化等の問題が顕在化する中、より安定的な野菜種子の供給体制を築くため、**国内外の新たな採種地調査、国内の効率的な種子生産・保管技術の開発・実証等**の支援に加え、**新たに、国内採種農家の育成・確保**の取組の支援を行うほか、**国内での種子伝染性病害のまん延防止に向けた種子防除技術の維持・確立**への支援を行います。

＜事業目標＞

野菜種子の安定供給の確保

＜事業の内容＞

1. 海外採種地調査等事業

海外における採種地が、食料生産との競合や気候変動等により、確保が難しくなる中、将来にわたる野菜種子の安定供給を目的として行う、海外の新たな採種地の確保に向けた現地調査、栽培適性試験等を支援します。

2. 国内採種基盤強化事業

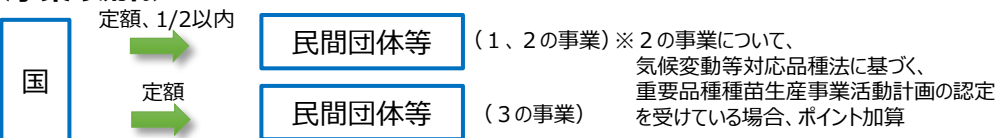
採種農家の高齢化や人手不足に加え、採種には交雑防止可能な環境と高い栽培技術を要することを踏まえ、以下の取組を支援します。

- ① 国内採種地調査等
国内の**新たな採種地**確保に向けた**現地調査、栽培適性試験**や、交雑しない環境の整備等に向けた**採種ほ場の集団化を促進するための取組**。
- ② 国内採種技術・保管技術の開発・実証
効率的な**種子生産・保管技術の開発・導入に向けた実証等**の取組。
- ③ 国内採種農家育成・確保【新規】
農業者等の**採種への参入を促進するための人材確保**の取組（担い手向けイベントへの出展や農業高校等での出前講座の開催等）や、**担い手のスキルアップ**（技術講習会の開催、研修等）の取組。

3. 種子防除技術の維持・確立

野菜種子の種子処理農薬の登録の維持・拡大に向けた取組を支援します。

＜事業の流れ＞



＜事業イメージ＞

採種地調査、栽培適性試験

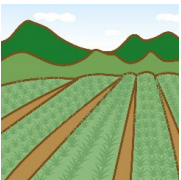
新たな採種地の開拓に向け、種子生産に必要な栽培環境等の調査、栽培適性試験、栽培実証等を国内外で実施。また、国内については、採種ほ場の集団化に向けて、地域の連携を促進するための調査等の取組を実施。

調査項目（例）

採種地への輸送アクセス、栽培インフラ、交雑防止の環境、栽培・採種技術、気候条件、人件費、最低受託面積、社会環境等

対象品目

指定野菜：国民消費生活上重要な野菜（キャベツ、にんじん、ブロッコリー等15品目）
特定野菜：指定野菜に準ずる重要な野菜（かぶ、ごぼう、ニラ等34品目）



国内の効率的な採種技術の開発・実証

効率的な種子生産・保管技術や新たな品目・品種の導入実証



日長は照明で調整
ミツバチが飛べるよう既存のパイハウスを高さ増し

国内採種農家の育成・確保

- ・採種への参入を促進するための人材確保の取組
- ・新規で種子生産に取り組む農業者等への研修、技術実証等の取組

種子防除技術の維持・確立

- ・種子処理農薬の登録の維持・拡大に向けた試験等の実施

世界各地に分散した生産によりリスクを回避するとともに、国内の種子生産基盤を強化し、生産・供給構造を強靱化